授業作り研修講座　実践レポート

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　座間市立東原小学校　　　　橋口　聖子

単元名　　第４学年　「ごんぎつね」

　　　　　　　　　　　　　　「ごんと兵十の日記を書こう」

実践のポイント（工夫）

・毎日の日記において、事実のみでなく、そのことについて感じたこと・思ったことを伝えるように指導していく。

・「ごんぎつね」を場面ごとに読み取り、ごんや兵十になりきった日記を書く。（叙述に注目させて書くこと）

実践内容

○毎日日記

　　連絡帳に毎日日記を書く。

　　事実のみではなく、感じたことや考えたことも書けるようにコメントしていく。

○国語の読物教材「ごんぎつね」の読み取り

　　場面ごとに、時・場所・気持ちに注目して叙述を読み取る。

○ごん・兵十の立場にたった日記

　　場面の終わりに、その日ごんと兵十が考えたことなどを日記に表現する。

○交流する

　　立場にたった日記をグループやクラスで発表しあう。

　　　※交流の中で、疑問に思ったことなどは叙述から考え、答える。

○毎日日記

　　毎日書く日記の書き方にも生かしていく。

振り返り（成果や課題）

・毎日の日記においては、教師が共感や疑問をコメントすることで、文を書く児童がふえた。誰に伝えるか（今回は教師）を明確にしていることで、児童の関心が多く、提出する子は多い。

・文を書くことが苦手な子は、事実を一文書くことから指導しているが、まだまだ課題は多く、感じたことは「楽しかった」のみの児童も多数いる。

・日ごろ日記を書いていることから、ごんと兵十の日記を書くことに多くの子が興味を示し、書いていた。グループ交流をすることで、日記を書く際に叙述から気持ちを表すことに気づいた児童も見られ、場面をおうごとにそのことを考えて書く児童が増えた。

・論理的な文章を書く指導という点では、「叙述から」を意識させたが、自然と児童が感じたことを書くこととなったので、この題材が適していたかどうかは、課題である。